

商工会議所LOBO（早期景気観測）

-2024年4月調査結果-

調査概要

- 調査期間 2024年4月10日～4月30日
- 調査対象 200社
- 回答企業 139社
- 回収率 69.5%

※DI値（景気判断指数）について

DI値は、売上・採算・業況などの各項目についての判断の状況を表す。

ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。

従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

なお、従業員の項目については、DI値ゼロを基準として、プラス値は人員不足感を表し、マイナス値は人員過剰感を表している。

DI値 = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)

業況・採算：(好転) - (悪化) / 売上：(増加) - (減少) / 仕入単価：(下落) - (上昇)

販売単価：(上昇) - (下落) / 従業員：(不足) - (過剰)

旭川市概況

※全産業の4月の状況を見ると業況DIは、前月より0.3ポイント悪化の▲22.3となった。

2017年9月以来80ヶ月連続でマイナス水準を推移している。

※向こう3か月の全産業における、先行き見通し業況DIは▲23.7、当月と比べ1.4ポイントの悪化が見込まれる。

旭川市全産業DI値（前年同月比）の推移

| | 2023年 11月 | 12月 | 2024年 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 先行き見通し 2024年5月～ 2024年7月 |
|------|--------------|-------|-------------|-------|-------|-------|-------------------------------|
| 業況 | ▲19.7 | ▲22.8 | ▲20.3 | ▲24.4 | ▲22.0 | ▲22.3 | ▲23.7 |
| 売上 | ▲3.9 | ▲13.4 | ▲5.3 | ▲14.7 | ▲13.3 | ▲18.0 | ▲8.7 |
| 採算 | ▲17.3 | ▲24.4 | ▲21.1 | ▲25.2 | ▲24.5 | ▲18.0 | ▲18.0 |
| 仕入単価 | ▲60.7 | ▲59.8 | ▲57.9 | ▲59.4 | ▲63.8 | ▲64.7 | ▲59.0 |
| 販売単価 | 26.7 | 26.0 | 27.0 | 25.2 | 25.2 | 35.2 | 33.8 |
| 従業員 | 32.3 | 33.1 | 33.0 | 30.0 | 37.0 | 38.9 | 39.5 |
| 資金繰り | ▲8.7 | ▲8.7 | ▲12.0 | ▲13.8 | ▲11.0 | ▲12.3 | ▲17.2 |

旭川市産業別業況DI値（前年同月比）の推移

| | 2023年 11月 | 12月 | 2024年 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 先行き見通し 2024年5月～ 2024年7月 |
|------|--------------|-------|-------------|-------|-------|-------|-------------------------------|
| 建設 | ▲37.9 | ▲31.0 | ▲31.0 | ▲36.7 | ▲11.6 | ▲33.3 | ▲33.3 |
| 製造 | ▲21.2 | ▲23.4 | ▲15.6 | ▲32.3 | ▲25.0 | ▲27.8 | ▲25.0 |
| 卸売 | ▲3.4 | ▲16.6 | ▲17.3 | ▲16.6 | ▲7.7 | ▲3.3 | ▲3.3 |
| 小売 | ▲15.8 | ▲25.0 | ▲27.3 | ▲21.0 | ▲30.0 | ▲25.0 | ▲30.0 |
| サービス | ▲17.7 | ▲16.7 | ▲9.5 | ▲5.2 | ▲39.1 | ▲21.7 | ▲30.5 |

今月のトピックス（業界の声・経営上の問題点）

| | |
|--------------|---|
| <p>建設業</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・いわゆる 2024 年問題に完全対応する手立てが見つかっていないため、手探りでの受注活動になり民間工事の受注は手控えざるを得なくなる。社員数がいれば何とか手が回るが、専門業者の職人がボトルネックになってくる恐れがある。経過期間が終わり、法の完全施行が始まって手探りの状態が続くだろう。（総合工事） ・工事は昨年と同様と比べて戸建てを中心に減少する見込み。向こう3カ月は徐々に増加する傾向にあるが、昨年よりも明らかに減少する見通し。このままの状況が続けば、工事が多い道央圏(札幌・千歳)に視野を移して活動する必要があると感じている。また、採算性については人員の維持・確保のために賃金を上げたが、今後の業績に悪影響を与える恐れがあるように感じている。よって、コストの増加分は価格に転嫁する必要があると考えているが、実行するのはなかなか難しいと感じている。（設備・その他） ・新築住宅の受注が伸び悩み前年同期と比較して落ち込んでおり、経営上厳しさが増している。今後の巻き返しを期待するも、建設単価の上昇に加え、まだ顕在化されていないが日銀のマイナス金利政策解除に伴う住宅ローン金利上昇が懸念され、建設業にとっては逆風にさらされている。住宅需要の減退は回避できないが、当社の建設する住宅のデザイン・性能・品質などをユーザーに熱心に伝え理解してもらう地道な営業努力により、この厳しい現況を打開していくしかないと考え。（建築業） |
| <p>製造業</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・商品の問合せ・商談があり、今後成立に向け継続させていきたい。人員不足が続いており加工繁忙期までには補充したい。（食料品） ・原材料の上昇、売上の減少。（印刷・出版） ・商品のリニューアルを行い1年が経過し、徐々に新しい商品が浸透しているが売り上げはまだまだ足りない。家具業界では、昨年2社廃業し、今年は8月に1社が事業を閉鎖すると聞いており、かなり厳しい状況が続いている。（家具・木材） ・トラックの労働時間規制により高速を使用する等して負担増になっている。（金属窯業他） |
| <p>卸売業</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・円安に拍車がかかり、仕入れ商品の更なる値上げが大きな負担になっている。（繊維・衣服等） ・設備の老朽化。投資をしたいが様々な物事の価格が上昇しすぎて対応できない。昨年4月は値上げがあり水産物全般的に動きが悪かったが、今年は昨年並みの価格で推移。値上げになれてきたように感じる。（飲食料品） ・林業機械(重機)に係る燃料費の高止まりと、長期利用に係る修理費等のコスト増。（機械鋼材） ・当月の業況については、前年同期と比べ微増に推移。小口ではあるが販売件数は伸びてきている。今後の見通しについては年央にかけてやや下降気味になるも後半にかけては徐々に上向くものとみている。（その他） |
| <p>小売業</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・4月スタートは天候も良く気温もどんどん上がり来店客も増え、春夏物商品も動きはじめ(薄物アウター)売上も少し良くなってきた。春夏商品は単価が下がるのでトータル販売を心掛けていく。（衣服身回品） ・トラックドライバー問題により、物流委託先からのコスト上昇要請が懸念。商品価格転嫁できるか市場価格見極めが重要になる。（食料品） ・コロナが5類に移行して1年になり、観光客も随分増えてきているが旅行支援が終了しているため、昨年と比べると国内の旅行者が少なく感じる。夏の観光シーズンに期待している。（その他） ・販売単価の上昇により前年対比で売上は増加する見込み。しかし、今年度から賃上げが決まり、エネルギー価格の高騰や今後の設備投資を考慮すると採算は悪化していくと予想している。（自動車） |
| <p>サービス業</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・人員不足・新人教育のため思い切った販促を打てない。今後3ヶ月で上向きになると思う。飲食部分にて仕入れ単価が地味に上がっているため、商品及び入館料も同じく、仕入れコストが上がっているため値上げをせざるを得ない。観光シーズンではないので、悪循環になっている。（理美容・クリーニング） ・円安による仕入れ価格高騰と同じく円安によるインバウンド客増加で相殺。本州旅行客の動きが鈍い。（ホテル・旅館） ・看板業界全体的に発注が減少しているに加え、東京や札幌方面から施工にきている。（その他） ・人手不足のため業務時間短縮から売上が不変から減少に。仕入単価も上昇のため今後は客単価を上げられるかを検討中。（飲食） ・板金修理については、年初より事故案件が多く売上はますますだが、それ以上に燃料価格塗料剤等・原材料やコストの値上がりが増え、止まらず今後も厳しい状況と見ている。特に保険会社との時間対応単価(レバレート)の大幅な値上改定が必須である。（整備業） ・雪解けも早く進み人の動きも活発化しているが、移動手段として二輪車が進んでおり増収が見込みにくい。足許の収益回復は進んでいるものの、コロナ期の負債が大きく資金繰り悪化で総じて厳しい状況は変わらず。価格転嫁は難しくしばらくは苦難。（運送） |

旭川市の産業別概況

| 産業 | 概況 |
|-------|---|
| 建設業 | <p>売上 DI8.9 ポイント悪化、採算 DI14.6 ポイント悪化、仕入単価 DI11.8 ポイント悪化、販売単価 DI16.9 ポイント改善、資金 DI4.4 ポイント改善、従業員 DI2.8 ポイント増加し不足感が強まった。総じて業況 DI は 21.7 ポイント悪化となった。業種別では、総合工事 18 ポイント、設備・その他 18 ポイント、建築業 16 ポイント悪化となった。業界としては小中学校の冷房設備設置が急がれているため、短期的には仕事量が多いとの声も寄せられている。</p> |
| 製造業 | <p>売上 DI23.2 ポイント悪化、採算 DI3.2 ポイント改善、仕入単価 DI1.7 ポイント悪化、販売単価 DI2.8 ポイント悪化、資金 DI1.4 ポイント改善、従業員 DI0.3 ポイント増加し不足感が強まった。総じて業況 DI は 2.8 ポイント悪化となった。業種別では、家具・木材 25 ポイント改善、食料品横ばい、印刷・出版 43 ポイント、金属窯業他 11 ポイント悪化となった。為替円安による原材料の高騰と高止まり。2024 年問題に伴う物流上の制約等が出始めてきたとの声も寄せられている。</p> |
| 卸売業 | <p>売上 DI22.7 ポイント改善、採算 DI17.7 ポイント改善、仕入単価 DI0.5 ポイント悪化、販売単価 DI5.3 ポイント改善、資金 DI3.3 ポイント悪化、従業員 DI2.6 ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DI は 4.4 ポイント改善となったが、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実態はほぼ横ばい。業種別では、機械鋼材 13 ポイント悪化、繊維・衣服等 20 ポイント、食料品 14 ポイント、その他 3 ポイント改善となった。灯油ほか石油製品の仕入値は小幅に上下しているものの補助金の効果もあり、現行のまましばらくは推移するものと思われるとの声も寄せられている。</p> |
| 小売業 | <p>売上 DI 横ばい、採算 DI5.0 ポイント改善、仕入単価 DI5.0 ポイント改善、販売単価 DI 横ばい、資金 DI15.0 ポイント悪化、従業員 DI5.0 ポイント増加し不足感が強まった。総じて業況 DI は 5.0 ポイント改善となったが、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実態はほぼ横ばい。業種別では、食料品 20 ポイント、自動車 7 ポイント悪化、その他横ばい、衣料品 100 ポイント改善となった。物価上昇により節約志向が高まっている感がある。賃上げに必要な原資の確保が急務になっているとの声も寄せられている。</p> |
| サービス業 | <p>売上 DI8.7 ポイント悪化、採算 DI21.8 ポイント改善、仕入単価 DI4.3 ポイント改善、販売単価 DI34.9 ポイント改善、資金 DI0.1 ポイント改善、従業員 DI8.7 ポイント増加し不足感が強まった。総じて業況 DI は 17.4 ポイント改善となったが、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実態はほぼ横ばい。業種別では、飲食 5 ポイント悪化、理美容・クリーニング、運送横ばい、ホテル・旅館 20 ポイント、その他 50 ポイント、整備業 25 ポイント改善となった。コロナの影響で中断していた、インバウンド需要によるリゾート開発が一斉に動き始めたとの声も寄せられている。</p> |